

## 第6回『呼吸と循環』賞一受賞論文発表

佐野 厚論文(呼吸器領域)と竹村隆広論文(循環器領域)が受賞

『呼吸と循環』誌では1年間に掲載された論文を対象に、『呼吸と循環』賞(Respiration and Circulation Award)を設置しております。本賞は当該年度の『呼吸と循環』誌(1~12号)に掲載された投稿論文(綜説は除く)の中からオリジナリティのある論文を選考対象とし、原則として呼吸器領域1編、循環器領域1編に賞状と副賞10万円を授与致します。第6回となる今回、2013年(61巻)に掲載された投稿論文が対象となり編集委員による厳正な審査のもと2編の受賞が決まりました。以下に、受賞論文と受賞者、評価対象となった論文の授賞理由を発表します。

【論文名】「CT画像からの3次元気管支画像の作成」(研究論文)

【著者名】佐野 厚、瀬尾 拓史、後藤 悌、吉川 充浩、中川 恵一(茅ヶ崎市立病院呼吸器外科、他)

【掲載号】61巻10号:970-974頁

【授賞理由】気管支鏡は呼吸器領域において最も汎用されている内視鏡診断・治療機器である。硬性気管支鏡からフレキシブルファイバースコープに技術転換が行われてから、既に40年近くなる。コンピューター、そしてそのソフトの開発を含めた技術革新は目覚ましい。数年前には想像だにできなかったことが、日常で行われている。若手医師の頭脳に、中高年医師はついていけない一面もある。本論文は、健常人の64列MDCTデータより、3次元気管支画像を作成して、iPadを利用して3次元データのまま公開したという趣旨である。医学教育において、気管支鏡は気管支模型を使用して行われているが、気管支鏡実施の前の予備知識、予備訓練としての有用性は極めて高いと思われる。Ⅲ-V字分岐までの気管支の3Dデータが構築されているため、気管支内腔と肺の局所解剖(肺区域)の関係が大変把握しやすくなっている。



●佐野 厚氏



●竹村隆広氏

【論文名】「心原性ショックを呈した重症大動脈弁狭窄症例に対し apicoaortic conduit 手術を施行した1例」(症例論文)

【著者名】竹村隆広、新津宏和、濱 元拓、豊田泰幸、津田泰利、白鳥和明(佐久総合病院心臓血管外科)

【掲載号】61巻7号:687-691頁

【授賞理由】急速な高齢化社会を迎え、わが国においても、大動脈弁狭窄症患者が急増している。大動脈弁狭窄症の通常の治療法は弁置換術であるが、末期大動脈弁狭窄症では心機能が低下しているうえに、超高齢なため、手術のリスクは高い。幸いわが国でもカテーテルによる大動脈弁置換術(TAVI)が行えるようになってきたが、TAVIといえども、デバイスの通過などによる塞栓症や、大動脈や心臓破裂などのリスクがある。本論文は、心原性ショックを呈した重症大動脈弁狭窄症例に対し、apicoaortic conduit 手術を施行した症例報告である。大動脈弁狭窄症に対して、apicoaortic conduit 手術が施行されることは稀ではあるが、上行大動脈の高度石灰化により大動脈遮断が困難な症例やバイパス術後の癒着によりグラフトの損傷の危険がある症例など、有効な症例がある。記憶しておくべき、貴重な症例報告であることから、『呼吸と循環』賞に選ばれた。